



MLIT
体験
レポート

清掃兼油回収船「べいくりん」は東京湾に浮遊するゴミや油を回収する高性能船。海洋環境整備事業の一環として、東京湾の水質改善と浮遊物の衝突による海難事故を防止する役割を担っている。

べいくりんに関する詳細はこちら（見学イベントの情報もあります）
<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/chiba/>

清掃兼油回収船 「べいくりん」

ゲスト 立川志の彦さん（落語家）

立川志の輔一門の落語家として活躍している立川志の彦さんは、かつてはライフガードを務めていたという異色の経歴の持ち主です。

東京湾の浮遊ゴミと油を回収して海の美しさと安全を守る
清掃兼油回収船「べいくりん」に同乗いただき、その活動を体験してもらいました。

ライフガードをやっていたときに浜辺のゴミを拾ったことはあるのですが、海のゴミはどうなるんだろうということが長年の疑問でした。べいくりに乗船して、本当に大切な仕事をされているなど感じました。毎年台風の直後は河川から多量のゴミが流れ込み、清掃も忙しいそうですが、乗船時は静かな海で、大きなゴミを数個拾っただけでした。見渡しても浮遊物は見えず、船員さんに「見つけた」と教えられてもすぐにわからないくらい。経験と勘なのでしょうが、目視でゴミを見つけていくのはすごいと思いましたね。

東京湾がこれだけきれいになったのは、べいくりんをはじめ皆さんの清掃活動のおかげだと思います。同時に、船と人に費用を掛け、この程度の回収

横浜の基地港から出発したべいくりん。全長は32.5m、総トン数199t。船体が2つ並んだような「双胴型」のデザインで、胴体間を抜ける海水からゴミや油を効率的に回収できる。



量だと割に合わないのではという疑問も湧きました。でも、例えばたった一つの流木でも、高速で衝突した小型船が動けなくなり、そこに大型船が衝突すると、東京湾全体を閉鎖しなければならぬ重大事故につながる場合もあり得るそうです。こうした事故を未然に防ぐための仕事でもあると聞き、改めて感心しました。

東京湾の浮遊ゴミと油を集める船と聞いて、実はタンカーくらいに大きい船を想像していたんです。意外と小さいあの船一隻に、横浜市3個分の広さがあるという東京湾の約6割を任せら



3 1



4 2



- 1 操舵室への階段横にある、シヨバルカーのように駆動するカゴ（スキッパー）が海上のゴミを効率的に回収する。
- 2 浮遊ゴミを見つけるとスキッパーを下ろし、船体の間に捉えて、すくい上げた。
- 3 浮遊ゴミによっては長いフックなどを使って、甲板から直接拾い上げることもある。
- 4 数週間前の台風通過後に回収した流木。中にはクレーンで吊り上げてからチェーンソーで切断しなければ甲板上に載せられない大物もあった。

べいくりんの管轄区域

東京湾には各自治体を持つ複数の清掃船があるが、べいくりんが担当する水域は約850km²、東京湾全体の約60%に相当する。取材時に訪れたアクアラインの換気口「風の塔」は、船長の経験上、ゴミの滞留が多いエリアだという。



立川志の彦 (たてかわ・しのひこ)

落語立川流 立川志の輔一門。大学卒業後ライフガードを経て、師匠立川志の輔の落語に出会い入門を決意。平成26年に落語における階級（見習い・前座・二つ目・真打ち）の二つ目に昇進。『立川志の彦落語会 in UPLINK』（渋谷）を毎月開催するなど、たくさんの人に落語の魅力を伝えるため積極的に活動中。

れている事実には驚きました。海を「洗浄」しつつ、大きな船がバンバン行き交う「戦場」のような東京湾で、その間をぬうように素早くゴミを拾っていく。その仕事ぶりに船乗りのプロ意識を感じました。東京湾の「船上カ」ここにあり、ですね。お後がよろしいようで♪（談）

